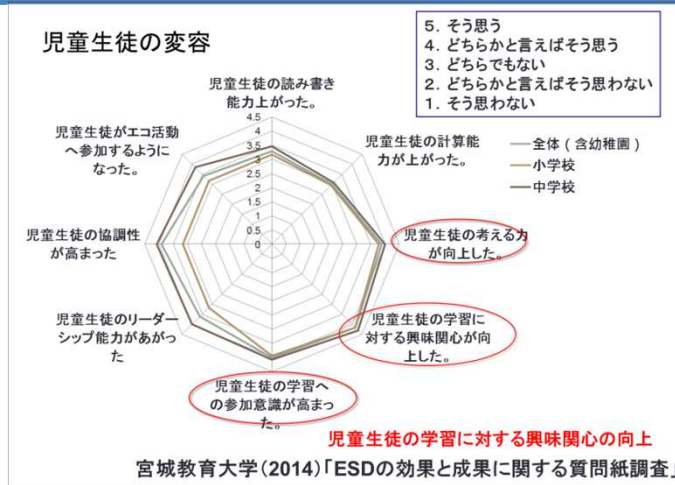


ESDの現状・成果

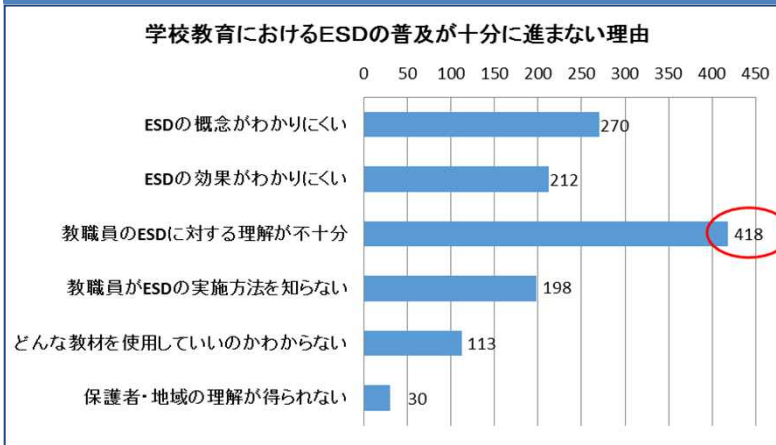
- 教育振興基本計画ではESDの推進が盛り込まれている。
- 現行の小・中・高等学校等の学習指導要領においても、世界や我が国の社会が持続可能な発展を遂げるために、様々な課題に協力しながら積極的に対応していくといった視点が盛り込まれている。
- 学校現場において、横断的・総合的な指導の実践が行われている。(年間計画やESDカレンダーの活用等)
- ESDを通じて、子供たちの学習に対する興味・関心の向上等、子供の意識の変容がみられたり、教科横断的な授業を実施を通じて、授業の充実・改善や教職員間の連携が深まり、授業改善につながったとの報告がある。
- ESDの推進拠点であるユネスコスクール数が939校まで増加したほか、「ユネスコスクールガイドライン」の策定により活動の質の確保が図られた。
- ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUivNet)が形成された。
- NGO/NPO、企業等により、地域の特性に合った多様なESDの実践がされている。

ESDの取組の推進に関する課題

- 学校教育におけるESDの普及が十分に進んでいない。その理由として、「教職員のESDに関する理解が不十分」を挙げたユネスコスクールは全体の75%であった。
- ESDを実施しようとしても学校現場でどのような学習活動を行えばよいのかについての十分な情報がなく、現行の学習活動に対して付加的なものとしてとらえられることが多い。
- 教職員の意識・指導力の向上のためのESDに関する教員研修が十分ではない。
- 国内外のユネスコスクール間の交流が不十分であるとともに、一部のユネスコスクールで優れた実践が行われてきているにもかかわらず、こうした実践事例を効果的に発信・共有できる場が限られている。
- ユネスコスクールから、効果的な活動の進め方や学習プログラム作り、評価方法等への大学からの指導・助言等が求められている。
- 地域でESDを実践する学校、若者、NGO/NPO、企業、社会教育施設等の多様な主体間での連携が必ずしも容易ではない。
- 日本として、国際的なESDの推進にどのように貢献していくのかを検討することが必要。



※2014年8月 気仙沼市内幼稚園、小学校、中学校、全33校へのアンケート結果



平成26年度ユネスコスクールアンケートより
調査対象:国内のユネスコスクール807校 回答数:554校

今後のESDの推進方策

- ESDは、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)を実践するものとして効果的であると考えられることから、全ての学校でのESDの実践を目指すとともに、ユネスコスクールをESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校として位置付ける。
- 学校と大学、若者、NGO/NPO、企業等の地域の関係者との連携を強化する。
- GAPに示された5つの優先行動分野に重点を置きながら、国際的なESDの推進に向けて引き続きリーダーシップを発揮する。

(1) ESDを広めるための取組

- ✓ 全ての学校におけるESDの実践を推進するため、ESDを各教科、総合的な学習の時間等において具体的にどのように実践すればよいのかや、その準備の進め方等のイメージを示す「ESD実践の手引(仮称)」を作成
(学校におけるESDのねらい、育成する資質・能力、ESDの意義や効果、具体的な学習活動の事例等を示す予定)
- ✓ ESDに関する教員の指導力向上のため、(独)教員研修センターや都道府県等の教育委員会にも働きかけ、「ESD実践の手引(仮称)」を活用した研修の実施や、(独)教員研修センター(次世代型教育推進センター)とも連携しながらより効果的な研修方法を検討
- ✓ 関連の指導主事を含め、都道府県等の教育委員会に対し、「ESD実践の手引(仮称)」について周知するとともに、関連の研修等における活用を働きかける
- ✓ 大学におけるESD実践の優良事例の収集・共有
- ✓ 地域におけるESDの取組への若者の参画を促進するため、若者がESDの取組を情報共有・発信するためのユースフォーラムを開催し、若者のネットワークを構築する

(2) ESDを深めるための取組

- ✓ ユネスコスクール全国大会を参加者間でのより活発な議論がなされる参加型の研修の場になるよう検討
- ✓ ユネスコスクールのうち、特に優れた実践を行うESD先進重点校への財政的支援
- ✓ ユネスコスクール支援大学間ネットワークの加盟大学を中心として、「ESD実践の手引(仮称)」を活用した地域における教員向けの研修を実施
- ✓ ESD推進のためのコンソーシアムを形成する事業を拡充・検証し、効果的なユネスコスクール間の交流方法や支援の在り方を普及
- ✓ 既存のユネスコスクール公式ウェブサイトを充実させ、教員同士が「ESD実践の手引(仮称)」を参考に行ったESDの実践や、使用した教材等をウェブサイト上で共有し、相互に活用できるような場の提供を検討
- ✓ 地域での多様なESDの実践をつなぐネットワークを形成

(3) 国際的にESDを推進するための取組

- ✓ 我が国がユネスコに拠出しているGAP信託基金を活用し、ユネスコ加盟国を対象としたESD事業の一層の推進
- ✓ ユネスコ/日本ESD賞で表彰された事例を積極的に発信するようユネスコに働きかけ、国内外におけるESDの実践の向上につなげる
- ✓ ドイツやスウェーデン等のESD先進国との連携を強化し、ユネスコスクール間での交流の促進等を検討
- ✓ ポスト2015開発アジェンダの目標の中にESDが盛り込まれるようESDの重要性を発信するとともに、ポスト2015開発アジェンダの指標の策定に積極的に貢献

学校現場におけるESDの更なる推進方策について

- ESDは、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)を実践するものとして効果的である。
- ESDが学校現場に新たなことを付加するものではなく、その観点はずでに学習指導要領に盛り込まれているものであり、ESDの実践は、日々学校において学習指導要領等に基づいて実施されている指導内容の充実に資する。

全ての学校でのESDの実践を目指すとともに、ユネスコスクールをESDの実践効果を高める取組を先導するモデル校として位置付ける。

